

## 令和5年度 坂井高等学校 学校評価書

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
学習支援	学習意欲を高め、生徒の主体性を引き出し、わかりやすく楽しい授業に向けた授業改善に取り組む。	生徒の授業満足度は前年度より1.9ポイント上昇し、目標を大きく上回った。 意欲的に学習に取り組んだ生徒も89.5%であり、前年度に比べ3.4ポイント上昇した。特に3年生が前年度2年次に比べ6.7ポイント上昇した。	1,2年生より実施している新学習指導要領では、生徒の学習評価を授業改善につなげる取り組みが求められている。実社会で活躍する人材を育成する本校の役割を踏まえ、すべての授業において生徒の主体性を引き出す授業を一層実践する。
	タブレット端末の機能を有効に活用した授業の実践や研究を推進する。	ICT機器を活用した授業改善に取り組む教職員は全体の68.9%と目標を下回った。本校のネットワーク回線に障害が発生しており、次年度改修を予定している。 学級閉鎖となった生徒等に対し、オンラインによる学習保障を実施した。	授業での活用方法は、教科別に校内外で行われる研究授業や、校内の授業公開週間で相互に授業見学をしながら情報を収集する。教科・科目の特性に応じたタブレット端末の効果的な活用方法を研究し、授業改善に取り組む。
生徒支援	進んで挨拶する態度や身だしなみに気をつけ、礼儀正しく生活する態度を育成する。	礼儀正しい生活ができた生徒、ルールやマナーを守った生活ができた生徒、いずれも95%以上で、目標を大きく上回った。生徒会が主体となった登校時の挨拶活動や集会等での声掛けにより、全体的には落ち着いた態度で学校生活を送っている。一部に規範意識が低く、度々指導を受ける生徒がみられた。	引き続き、教職員全体の共通理解のもとで、各部・学年会・コースが連携しながら組織的・継続的に生徒支援に取り組む。 生徒会活動とも連携して、生徒自身が学校に誇りを持つ活動を進める。 観察・傾聴、共感を意識し生徒と関わることで生徒の自尊感情を育み、自律性と規範意識を高める。
	生徒の主体的活動や行事等への参加を促し、学校行事や生徒会活動を活性化する。	学校全体またはコース毎の行事等に積極的に取り組んだ生徒は95.7%で、前年度に続き目標を大きく上回った。学校行事がコロナ禍以前の規模で実施できたことで、生徒の積極性が高まった。 生徒会が中心となって、挨拶、清掃取り組み、募金など学校の魅力を向上するための見直しを生徒主体で行った。	学校行事やコースの行事を通して、生徒が主体的に活動できる機会を一層確保するとともに、校則の見直しや学校祭の企画・運営等、生徒会が中心となって、より主体的に活動に参加する機会を設定する。
進路支援	職業体験、企業見学、説明会、就職模試、個別面接等を通して、就職支援を強化する。	明確な進路目標を持ち、その実現に取り組めた生徒は88.2%であった。進路情報に関する評価は昨年度より2.1ポイント上昇した。 一斉メールを活用した進路だよりの配信やHPの更新頻度を高め、進路情報が適切と回答する保護者は93.8%と前年度より6.5ポイント上昇した。	すべての学年に対して、多彩な進路行事を実施し、早い段階から企業情報を提供することで進路目標の明確化を図る。 保護者に対して確実に進路情報が伝わるように、一斉メールやHPなど複数の方法で周知する。
	PUTを活用した進学対策講座、個別添削等の充実を図り、進学支援を強化する。	3年間の見通し、計画的にPUTを実施したことで、進学や資格取得の成果が高まった。昨年度に続き、複数の地元国公立大学合格者を輩出し、私学4大や専門学校等を含め、概ね希望通りに進学できた。	引き続き、PUTを柱として、進路指導部と関係教科・コースが連携し、一人ひとりの進路目標の実現に向けて指導の充実を図る。
安全教育	心身の健康状態を把握し、疾病を予防するとともに健康の管理ができるよう支援する。	適切な判断で保健室を利用したと答えた割合は昨年度とほぼ同様の98.7%で目標を達成した。 健康観察、欠席、感染症罹患連絡をホームページからGoogleフォームによる報告として情報収集を効率化できた。	インフルエンザや新型コロナウイルス感染症の感染防止対策に引き続き、取り組むとともに、健康診断後の眼科・歯科の受診について、受診率の向上に取り組んでいく。
	安全対策および防災教育等、防災体制の強化に努める。	従来からの防災訓練、校内安全点検に加え、洪水による浸水被害から身を守る避難訓練や学校防災アドバイザーによる教員研修を実施した。	不測の事態が発生した際、適切に対応できるように危機管理マニュアルの再確認および徹底を促す。

項目	具体的取組	成果と課題	改善策・向上策
専門教科指導	実践的・体験的な学習を通して、職業人としての意識づけに努める。	専門教科の学習に積極的に取り組んだ生徒は 95.9%で、目標を達成した。専門教科の学習や実習内容に満足と回答した保護者は91.9%で、昨年度とほぼ同じ回答となった。	地域や地元企業等と協力する、「坂井高校コンソーシアム」を活用しながら、より魅力のある専門学習を推進していく。さらに、探究的課題研究を中心に、学科間の横断的な学びの充実にも取り組み、地域に貢献できる学びにつなげたい。
	資格試験や検定試験への取り組みを通して、進路意識の向上に努める。	資格・検定試験で1つ以上の資格を取得した生徒は75.7%で、目標を達成した。特に、1年生は、昨年度同学年と比較し13.4ポイント上昇した。挑戦したが取得できなかった生徒が15.2%で、昨年度と比較して1.5ポイント減少した。	資格取得の意味・価値を生徒に伝え、取得への意欲が低下しないよう引き続き指導していく。また、社会で実践的に役立つ資格を取得できるように、指導体制、指導方法および個別指導の充実を図る。
教育相談	生徒理解を深め、個々の生徒にあった支援に積極的に取り組む。	年度始めに教育相談部が中心となり、生徒の特性に関する情報共有を行った。 生徒の特性に応じた支援を行うことに努めた教職員は94.6%で、前年度と比較して4.2ポイント上昇した。	教育相談部を中心に、外部機関とも連携した支援体制の更なる強化を図る。 年々、生徒の多様化が顕著になり、柔軟な支援の必要性が高まっている。具体的かつ適切な支援活動を実践できるよう校内研修の充実を図る。
	抱えている問題に適切な方法で対処する力を育成する。	困ったことが生じたとき「適切に行動できた」「適切に行動できたことがあった」と回答した生徒の割合は95.5%で、目標を達成した。	ロングホームや各種集会などを通じて、他者理解・自己理解を踏まえた円滑な人間関係が構築できるよう指導を行う。また、問題を一人で抱え込まず、周囲の信頼できる友人や大人等に相談できるよう SOS の出し方教育にも取り組む。
主体的な諸活動	休養日の設定と主体的練習計画で、心身に充実した活動にする。	79.0%の生徒が、部活動の取り組みが充実していたと回答しており、1ポイント目標を達成することができなかった。特に2年生が70.1%と前年度の2年生と比較して19.2ポイント減少した。	休養日の設定と効果的な練習方法について、顧問は生徒と十分に意思疎通を図り、生徒が目標達成に向けて主体的に取り組めるように、外部人材の活用も含めて支援していく。
	図書館資料(本・新聞)の利用を通じて思いや考えを広げたり知識を深めたりしながら読書の楽しさを知る。	前年に比べ学校や自宅等で読書をする機会や読書の冊数が増えた生徒は44.2%で、前年度に比べ5.9ポイント上昇したが目標は下回った。 年間56本の新聞掲載が実現し、図書館の本や廊下の新聞記事などの掲示物を見ている生徒も45.7%と前年度より5ポイント上昇した。	全学年、朝読書に取り組み、読書習慣の定着を図るとともに、読書の魅力を全生徒に発信し、図書室の利用促進につなげる。 報道機関への情報発信を積極的に行い、新聞やメディア掲載の機会を増やし、記事の掲示を充実させることで生徒の関心を高める。
魅力発信	中学生やその保護者にわかりやすい広報ツールを開発する。	学校HPや公式インスタグラムを通じて、コースの実習や部活動等の様子を発信した。 マイスター・ハイスクール事業の取り組みをまとめた通信を定期的に発行し、近隣中学校等を配布し、探究的課題研究の内容理解を図った。	オープンスクールや中学校での学校説明会等の機会を利用して、探究的課題研究の魅力発信に努め、学校HP、公式インスタグラムの周知を行う。 3月刊行予定のマイスター・ハイスクール事業通信の特集号を活用して、中学3年生への情報発信を強化する。
	コースの専門性を生かした地域課題解決の研究を通して地域貢献を進める。	マイスター・ハイスクール事業を活用した地域貢献活動として、各学科の特長を生かし、学科連携した地域資源の魅力向上等に取り組んだ。 12月には地元中学生を招いて、これらの研究成果を発表した。	マイスター・ハイスクール事業の成果を生かした「坂井高校コンソーシアム」を設立し、地域や地元産業界と連携した課題研究を深化させ、地域貢献活動の充実を図りながら次世代の産業人材育成を目指していく。